



研究者への期待

常務取締役
生産・技術本部長 小原百門

「在任期間中、常に脳裏にあった命題は“個と集団の関係”，つまり個の独立と集団の組立・調和である。個々の単一技術・テーマあるいは個々の研究者の範囲から、室・所・企業としてのスコープまで、大きくは業界・国単位の課題として技術・経済を個と集団の関係で、どう捉え組立て・調和させて行くかが問われている時代と考える。個性有る研究者の育成から、特徴有る研究所が創成され、結果としてふさわしい製品・プロセスが創出されるであろう。責務の大きさを思うと共に、所長の持つ思想・職業観・人生観の重大さを痛感する。後任者が前任者以上の喜びを、結果として所員と共に得られることを念願し、期待する。」

と6年前、技術研究所長交替時の業務引継書の所感を結んだが、その後国際化を含め企業を取りまく経営環境（政治・経済・技術・文化）は予想以上に激変し、更に変化しつつある。

これだけの変化・変動をもたらした要因は種々考えられるが、企業の生産技術の向上・レベル差が一大要因であることは疑う余地はあるまい。現に米国で“生産技術が一国の興亡を決定する”との声があるとの様相を見るに、メーカーの生産・技術部門を担当して間はないが、一技術者として、TOP化への想いを新たに、環境変化と企業の持つ自由度との相関の中で、各種の態勢整備の必要性を強く感じている。

メーカー固有の生産技術は、当然研究を発端に、開発を経て、更に精化の過程を通じて確立されるのが常道であり、従って研究戦略に沿ったテーマ選択に根源があるのは云うまでもない。選択の前に提案があり、従って研究者としての基本的必須要件の一つにテーマ提案能力がある。更に採択あるいは研究の各段階におけるアセスメントを通じて、テーマ毎にウェイトのかけ方に差はあるにしても、次の技術的諸点は常に考慮される。

- A) オリジナリティは何か？
- B) 得意な分野・技術からの拡散的展開か、又は新たな技術構築は何か？
- C) 競争力のポイントは明確か？
- D) 多くの派生的商品・技術を生む可能性は？

等極めて常識的なことの深い詰めとテーマにかける情熱・執念が成功への道を開くものと考ええる。

政治・経済・技術・文化と云ったものの変化が相互に作用し複雑な絡み合いの中から、経営環境の変化をもたらす、戦略の修正・戦術の変更を迫られる事態が常に予想される中で、将来の見通し・展開の方向・スピード等がある確度で予想可能なものは技術分野のみと考えざるを得ない。

従って、企業の将来の姿を決定する誘導的機能が研究者の役割として大きく求められているとの観点から、自信と誇りを持って諸氏が、個人として・集団として大いに研鑽されることを期待する。